2026.9.10【開催報告】NIC-Japan セミナーシリーズ：
「FCE（外国学歴・資格評価）研修特別プログラム」開催報告

高等教育資格承認情報センター（NIC-Japan）は、令和 8 年 9 月 10 日（木）に、大阪において対面形式による「NIC-Japan セミナーシリーズ：FCE 研修特別プログラム」を開催しました。本プログラムは、令和 8 年 7 月にオンライン形式で実施した「NIC-Japan セミナーシリーズ：FCE 研修プログラム」に続く取組として実施したものです。

【開催の目的】

本プログラムは、外国の学修履歴を有する者に係る出願資格審査・入学資格審査等を担当する大学等の教職員を対象に、外国学歴・資格評価（FCE）に関する理解の促進及び専門性の向上を目的として実施しました。世界規約及び東京規約の理念や関係法令、各国の教育制度・資格の位置付けに関する理解を深めるとともに、グループ討議や実践的な演習を通じて、実務上の課題への対応力や判断の視点を学ぶ機会としました。また、参加者同士の情報共有や意見交換を通じて、実務担当者間のネットワーク形成を促進しました。



服部大学改革支援・学位授与機構長による開会挨拶



講義の様子



グループディスカッションの様子



ワークショップ（FCE 実践演習）の様子

【概要】

- **セッション① パネルセッション**

「大学 FCE の現場から」「NQF の機能と展望」「UNESCO の規約で何が変わったか」

登壇者：堀田 泰司（高等教育資格承認情報センター シニアアドバイザー）

野田 文香（大学改革支援・学位授与機構　研究開発部教授）

森 利枝（高等教育資格承認情報センター長）

セッション①では、FCE をめぐる実務上の課題から国際的な資格承認の考え方、さらに国内制度との接点までを体系的に取り上げました。まず、堀田シニアアドバイザーから、大学の出願資格審査における現状や課題、コンプライアンスの観点から留意すべき事項について紹介がありました。続いて、野田教

授から、日本の教育資格枠組み（JEQF）の概要や、各国の資格を比較・理解するための資格枠組み（NQF）の役割や意義について説明がありました。さらに、森センター長から、東京規約及び世界規約を踏まえた資格承認の考え方や、日本の制度との関係の中で生じる課題や論点について解説がありました。参加者は、外国資格評価を実務・制度・国際的視点のそれぞれから捉えることで、その後のグループディスカッションに向けた理解を深めました。

- **グループディスカッション①**

参加者はグループに分かれ、FCE に関するケースを題材として意見交換を行いました。セッション①で示された実務上の課題や制度的な論点を踏まえながら、それぞれの機関における対応や判断に至る考え方を共有し、多様な視点から外国資格評価について意見交換を行いました。参加者同士の活発な議論を通じて、日常の業務では得にくい他機関の知見や経験に触れる機会となりました。

- **セッション②「中国の教育制度と高等教育資格 ― 日本の大学への接続と国際高校をめぐる課題」**

登壇者：李 敏（大学改革支援・学位授与機構　研究開発部教授）

セッション②では、中国の教育制度や資格体系、日本の大学との接続関係について講義が行われました。中国の初等中等教育から高等教育に至る制度の概要や、学籍管理制度、資格確認の方法などが紹介されるとともに、近年多様化している国際高校の事例についても解説がありました。また、中国の教育制度における資格の位置付けや高等教育への接続性に加え、出願資格の確認と入学者選抜における学力・適性の評価は区別して考える必要があることが示され、参加者は FCE を実施する上での重要な視点について理解を深めました。

講義後の Q&A セッションでは、中国の学籍制度、国際高校の運用、大学院進学資格、証明書の真正性確認などをテーマに質疑応答が行われ、参加者は制度の運用や実務上の留意点について理解を深めました。

- **セッション③ 講義・ワークショップ（FCE の実践演習）**

登壇者：韓 立友（京都大学 国際高等教育院准教授）
服部 寛子（京都大学 学務部大学院教育支援機構企画室 副室長）
加舎 みのり（京都大学 学務部大学院教育支援機構企画室アドミッション支援室 室長）

セッション③では、講義とワークショップを通じて、大学における FCE の実務について学びました。はじめに韓准教授より、京都大学アドミッション支援オフィス（AAO）の設立経緯と取組について紹介がありました。続いて服部氏より、京都大学における留学生受入れ支援体制について説明があり、加舎氏より、AAO 申請システムや学歴・証明書類の確認方法について実務的な観点から説明がありました。その後、ケーススタディを用いたワークショップを実施しました。参加者は、教育機関の正規性、資格の位置付け、高等教育への接続性、提出書類の真正性などの観点から評価を行い、実際の審査業務を想定した検討を行いました。講義と演習を組み合わせることで、実務に必要な知識や判断の視点について理解を深めました。

- **グループディスカッション②**

ワークショップ終了後には、ケーススタディの検討結果を共有するためのグループディスカッションを実施しました。参加者は各グループで検討結果や判断の根拠を共有し、評価に必要な情報や判断プロセ

スについて意見交換を行いました。また、各大学等における体制や課題についても情報共有が行われ、実務担当者間のネットワーク形成の重要性が改めて認識される機会となりました。

閉会に当たり、本機構山田理事より、本研修の総括として、外国学歴・資格評価においては、資格の位置付けや高等教育への接続性、質保証の仕組み等を総合的に理解することが重要であること、また、各機関における知見の蓄積や担当者間の情報共有、継続的なネットワーク形成も重要であることが改めて確認されました。最後に、登壇者への謝辞とともに、NIC-Japan として、各大学において FCE や出願資格審査に携わる担当者が、日々丁寧な確認と判断の下で業務に取り組んでいることを高く評価すると共に、今後も実務に活かせる知見を得ることができる機会を提供していくと述べ、本プログラムを締めくくりました。